

国宝土偶の特徴解説

上野主事がギャラリートーク

尖石縄文考古館

茅野市尖石縄文考古館は17日、国宝土偶「縄文のビーナス」と「仮面の女神」の展示解説（ギャラリートーク）を同館展示室Bで開いた。市文化財課考古館係の上野楓主事（23）がガイドスタッフを務め、国宝土偶の特徴や出土した際の状況など、参加者の興味関心に合わせてぎっくばらんに解説した。

同館によると、来館者から国宝土偶の解説を聞きたいという声が多く寄せられる中、今年度入庁した上野主事が学生時代に縄文時代晩期の土偶を学習していた背景などから計3回のギャラリートークを企画。初回となったこの日は熱心な縄文ファンや来館中の観光客など県内外から約20人が参加した。

上野主事はガイド冒頭「縄文時代の国宝は国内に6件あるが、うち2件をこの館で收藏している」と説明。4面ガラス張りの展示ケースで360度から国宝土偶を見渡せる



尖石縄文考古館で開かれたギャラリートーク。国宝土偶について解説する上野主事（左から2人目）

ことを同館の展示の「押しポイント」とした。遺物に刻まれた文様から年代を推定できることや2体の土偶が女性を

表していると思われる根拠などを解説し、参加者の質問も広く受け付けた。

上野主事はガイドを終え取材に「緊張で少し早口になってしまったにもかかわらず、話したいことはまだまだたくさんありました」と笑顔。「土偶のどこに引かれるのかをよく聞かれることがあるが、縄文人が何を考えていたのかうかがい知れるところだ」とその魅力を語った。

ギャラリートークは2月21日と3月21日にも実施する。時間は両日午後1時30分～同2時15分。参加は無料だが、入館料が必要。問い合わせは同館（電話0266・76・2270）へ。（平岡大輝）